

河萬鎬先生に聞く

固城五広大 WORKSHOP

去る5月9日から11日にかけて、固城五広大のワークショップがあった。講師は河萬鎬先生。河先生は固城五広大の人間文化財、故李今洙先生の外孫で、もともとは中学校の先生という異色の経歴の持ち主。現在は固城五広大保存会の履修者として、修行と普及に努めている。趙寿玉チュムパンの会を中心とした27人の参加者は、この三日間、充実した時間を持った。

今回のワークショップで教えていただいたのは、基本チュムとということですが、固城五広大には、五つの科場があります。総ての科場で、共通して踊る踊りというのがあるのでしょうか？

河 基本チュムは、各科場で踊る、代表的なチュムサウイを集めて、

練習用に構成したものです。これは1975年頃、ホジョンボク(司令)先生が作りました。当時は軍事独裁政権の時代で、民主化運動をしていた学生たちの中に、伝統文化に目を向けた人たちが居て、今までに学生たちが4万人ほど習

いに来ました。学生たちは全く何も知らなかったもので、教えるに当たり、基本となるものを作る必要がありました。こうしてできたのが、今回教えた、基本チュムです。先生は、鶴の姿を真似て踊るように、といわれました。



れた「全国民俗芸能競演大会」では国務総理賞、翌74年には大統領賞を受賞するなど芸術面でも高く評価されている。農村社会の仮面

固城五広大保存会

劇らしく素朴で男性的なチュム(舞)とともに、両班(貴族)に対しても対立的な様相よりは寛容な部分が固城五広大の特徴。第二

科場であるオグワンデノリ(五広大遊び)は、東西南北を表す青・白・赤・黒帝両班と中央を表すウオン両班(黄帝)に二人の父を持つといわれる紅白両班、トリヨン(若い官職を持たない貴族)などの7人の両班を相手に語られる下男のマルトゥギ(馬夫)の諧謔的な台詞のやり取りは、たくましいマルトゥギのチュム(舞)とともに固城五広大の特徴のひとつでもある。

トツペギという踊りも教えられたと言っていますが、河 トツペギというのは、呉岬(ウツミ)のことで、もつとたくさん踊って見せる、よく見せる、格好良く見せると言うことで、本日教えた最後のチャジュンモリの部分のことを言います。基本チュムの中の内一つです。

韓国には、タルチュムとか仮面劇とかと呼ばれるものが、何種類もあります。それらはどのくらいのものがあって、固城五広大は、それらのものと比べてどのような特徴があるのでしょうか？

河 簡単に言うと、各村ごとにその村独自の踊りがあったと言えます。現在韓国では、12のタルチュムや仮面劇と呼ばれるものが、無形文化財の指定を受けています。固城五広大は、団体として無形文化財に第7号で指定されました。個人としては、8人の方が指定されましたが、現在残っているのは、1名だけです。固城五広大は、他の地方のタルチュムと比較して、台詞が少なく、踊りが多いという特徴があります。チュムサウイも多様です。

母方のお爺さんが固城五広大を

後継者は居ないのでしょいか？
河 現在、23名が固城五広大をしています。この内、皆に推薦された者が人間国宝になります。最近

(次頁へ)

舞踊教室だより 又ンムルチュルチュル

私の故郷は慶尚南道咸安郡、河先生と同じ、先生の話される言葉の中に時々サトウリ(方言)が出てきてとてもなつかしく亡くなった祖母を思い出していました。

昨年、生まれて初めて韓国に行き、釜山空港で現地のおばさんたちが話す、慶尚道のサトウリを聞いた時、一緒に暮らしていたハルモニを思い涙が出たと河先生に話したのです。それが「눈물(涙)가, 보로보로,」ということ。今は踊れなくて、又ンムルチュルチュルです。18歳で日本に渡ってきたハルモニ、故郷に帰ることがなかったハルモニ。いろんなことを聞いてみたかった。そう思ったら本当にせつなくなっちゃいました。一度、ゆっくり自分のルーツをたどりたと思います。そんなこんなで、河先生のサトウリ大好きです。

(鮮)



第1号 2003/6月

も推薦の動きがありました。満場一致ではなかったために、対象の方が辞退され、人間国宝の指名には至っていません。しかし皆、固城五広大が好きで、練習に励んでいます。

先生自身は、どのような経緯で固城五広大をするようになったのですか？

河 母方のお爺さんが固城五広大をしていました。私の父はしていませんでした。私自身は、中学の国語の先生をしていましたが、習いに来た大学生と一緒に習いはじめ、自分の学校の生徒に教える内に、面白さにとりつかれ、専門とするようになりました。

コサとティプリはひとつのセット

最後に踊りの基本構成について教えて下さい。最近の踊りでは、コサ(告祀)をしないで、ティプリだけをしているようですが、あれは、あれでいいのでしょうか？

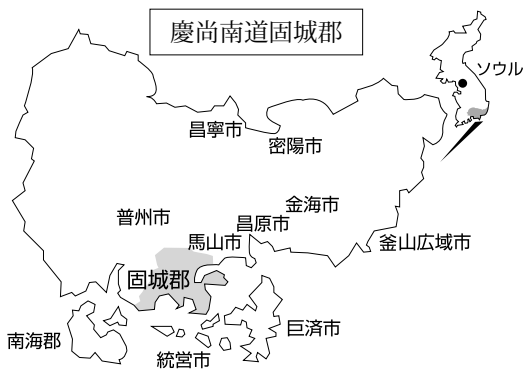
河 踊りというのは、先ずコサ(告祀)をして、その時に面を受け取ります。それから村人たちのために踊って、最後にティプリをします。コサ(告祀)は、今から踊りを始めると言うことを神様に告げる手続きであり、ティプリは、踊り手が、本番で「気」を使って多くのものを見せたので、その「気」を消し去るために行います。はじめと同じように、何事もな

った状態に戻すためです。都会の踊りでは、一時間とか、時間が決められていて、決まった時間内ですなければならぬので、多くはコサ(告祀)が省略されています。しかし踊りの場では、コサ(告祀)とティプリは、ひとつのセットとして、しなければならぬことです。

気を消すというのは、仮面を燃やすことと関係がありますか？

河 あります。ソタル(焼タル)といって、昔は、踊りが終わると、自分が被っていた面を燃やしました。それは自分が使った気を消すためであり、その気が引き起こす災いを後に持ち越さないためでした。最近では、面は燃やさずに何度か使うようになりました。

(聞き手・翻訳 李起昇)



2003年度固城ワークショップ参加者概要

アンケート回答数：27人中16人

参加した日

クラス	9日		10日		11日	
	午後	夜	午後	夜	午後	夜
人数	12	11	12	11	15	16

舞踊キャリア

参加者のうち韓国舞踊をしたことのあると答えた人(13人)の平均キャリアは2年4カ月。ほかの舞踊をしたことがあると答えた人(5人)の平均キャリアは10年でした。

年齢層

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
6%	25%	44%	19%	6%

その他

回答者の半数が昨年の韓国での固城ワークショップ参加者です。

河先生から学ぶことに加え、一緒にやる人のエネルギーを貰うという、集団でやることの意味を実感しました。個人的には伴奏のチャンダンも勉強しつづつと五広大をやりたいです。風物の音の中で踊りたい。

◎おかげさまで良い気を取り込み、悪い気を払うことができたような気がします。とにかく、皆で楽しく踊れて気分が良かったです。(一部アンケートより掲載)



固城五広大
 ◎昨年夏の韓国固城でのワークショップに続いてこの5月、幸いにも東京で河先生を招いての指導を受けることができた。総勢27名の参加となり、厳しい中にもユーモアたっぷりの指導に感動

厳しい中にもユーモアたっぷりの指導に感動

ぷりの指導に汗と笑い感動をしっかりと受け止めることができた。力強くしなやかに土に根ざして生きる人々の連帯感がひとつの輪に表現され、伝承芸能の神髄を見る思いがした。とはいえ、それを自らものとして表現するには、ほどほど遠いのだが、いつの日か心と身が輪の中で一体化して踊りとりける日が来ることを願いつつ、二度、四度「固城五広大」と出会えることを祈りつつ…。 橋本幸子

◎舞踊をきちと学んでいる方達が、何かを学ぶときにはこのようにひとつひとつの形や角度、方向その他をきちんと確認しながらやっていくのだなど、とても驚き。

基本チュムワークショップに参加して

ワークショップに寄せて
起伏転変してキレ深いチュム
 富村 昇

であいは横浜公演、なんと自由闊達なチュムなんだろうと、たちまち魅了される。起伏転変してキレ深くオツパクにノッてタメもある。舞いたつ魂は翔たき奔放。じつは、公演前夜にもたれた饗宴で即興に魂が風発しておどりあつたのだが、そのチュムたるや…。で、原郷をたずねて金海空港からバスを継いで固城に。そこは山神も籠もり海原せまる碧い故地。かつて久嗟と称した伽倻の要衝：伽倻びとの夢は于勒の琴にたくされ、新羅に併合されてもおお、洛東江と響鳴し、渡海しては日本にも伝わった。

また、その唐項浦には海戦に敗れた倭軍船が秀吉の野欲ともども沈んでいるという。公演はこの野外広場に降臨して妖しく、魂魄も篝火に燃えて…。

その源は朝鮮時代末、南外部落で唱やメグノリ(農樂)を楽しんでいた庶民たちの遊びに発するという。洛東江の中流・草溪バムマリを拠として芸に放浪した「竹廣大牌」のノリを素朴に継承しているのである。なかでも「五方神将」が鬼神を蹴散らして踏み舞うトツペギチュムは優美ですらある。

わたしはそこに、慶尚地方とは区別しうる伽倻の粋さをみいだすのだ…？